

---

# 歌姫

星井湾

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

歌姫

### 【著者名】

N1231P

【作者名】  
星井 湾

### 【あらすじ】

ある女性歌手のラスト・ステージ。

とても肩肘張つて書かれていますが、その割に面白くないと思います。

星の降る夜だった。

夜空に打ち上がる大小の花火と、七色の光を放つライトの数々に照らされながら、彼女のステージは終わりに近づいていた。

目前に浮かびあがる、顔のない数万の観衆は、曲が終わるたびに、彼女に喝采の拍手をあげせる。彼女のまっすぐな歌声は、夜の空気を裂きながらどこまでも遠くへと行き、空に浮かぶ数えきれないほどの星は、瞬きながら、とてもゆっくりとした速度で、地面にめがけて落ちてきている。重低音につなりをあげるスピーカーと、ステージを映し出す巨大なビジョン、歓声と賞賛、彼女は今までに、自分のあるべき場所に、その姿を見つけている。

歌だけが彼女のすべてだった。天才としてもではやされたことも、シーンの一時代を築いたことも、彼女にとつては、さして重要な関心ではなかつた。ただ、歌手としてステージに立つてはいる瞬間だけは、自分が生きているということを全身で感じることができた。

次が最後の曲になる。やはり昔ほど上手くは歌えないだろうが、彼女はこの曲に特別な思い入れを抱いている。横では、うまく顔の思い出せないバンドのメンバーの一人が、こちらを見て微笑みながら、ライブの成功を確信している。ステージの脇に目をやると、そこには仲の悪かつたマネージャーと、昔の恋人がいて、その笑顔で彼女を勇気付けている。

すべてがうまくいっていた。世界中が彼女にやさしくしていた。そして思えば、それから起ころるすべての出来事は、彼女の本意ではなかった。鬱屈とした病院生活や、日を追つごとにやつれしていく自分の姿には、今や何の現実性も見いだすことができない。

彼女の世界は綻び始めている。

彼女が舞台に集中しなおすと、再び夜空に大きな花火が打ち上がる。暗転したステージの上で、スポットライトは彼女一人に注がれる。青く光るサイリウムを手にした観客たちは、ふと静まりかえり、彼女の歌声を心待ちにする。

彼女はひとつ深呼吸をして、顔をあげる。

その視線の先に、真に満ち足りた自分の姿をとらえる。

そして彼女は歌う。彼女が一番良かつた頃の歌を。

・ · · · · · · ·

人気のない夜の病院の裏庭で、彼女の澄んだ歌声は虚空へと消えてゆく。

満天の星空だけが、彼女のたつた一人のステージに彩りを添えている。

きつとすべてが終わった後も、彼女は、自分の未来にだけは興味を

持てずにはいるだろう。  
ほんの僅かでさえも。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1231p/>

---

歌姫

2010年12月2日02時13分発行